

## 臬

**臬**は、品と木との会意字です。“木の上にたくさんの鳥がいて、口をそろえてさえずっている”ことを表わした字で、“噪(さわがしい)”の本字です。音は騒ソウの意味でソウです。

**噪**は、口と臬との会意形声字で、音は臬ソウです。“さわぐ”“さわがしい”という意味の字です。喧噪(やかましい)、蛙鳴蟬噪(蛙も蟬も共に鳴き声がうるさいものです。役にも立たぬだけでうるさい文章や言論を軽蔑して言う時に使うことばです)。

**譟**は、言と臬との会意形声字で、音は臬ソウです。“大勢の人が集まってがやがやさわぐ”ことを言います。狂譟(狂ったようにさわぐ)。

**躁**は、足と臬との会意形声字です。“わいわい言いながらさわがしく歩き回る”ことを表わした字です。若い人たちの間にはやりのダンスなどは正にこの躁に当たります。狂躁(狂ったように騒ぎおどり回る)。

**澡**は、水と臬との会意形声字です。躁が若者のダンスなら、澡は奥様の井戸端会議です。昔は川端で奥様たちがペチャヘチャ世間話をしながら洗濯をしたものですが、その様を“澡”と言ったのです。“あらう”が本義です。澡洗。「澡室」は風呂場のことです。

**藻**は、臬と水と草の会意形声字です。“絶えず水の中でゆらゆらと動いている草”という意味がすぐ推察できるでしょう。“水草”である“も”のことです。海藻。転じて、“詩文の美しい表現”→“美しい文章や詩”のことを言います。文藻、詞藻。

**繰**は、糸糸と臬との会意形声字で、音は臬ソウです。糸を繭からとる時は、糸車がかがらがらと勢いよく音を立てて回るのでやかましいものです。そこで“糸をとる”ことを、繰で表わしたものです。このことを“糸をくる”と言うのは、糸を合わせるため、次から次へと新しい繭の糸口を拾って“くりこむ”ためです。訓は「くる」と読みます。「繰越金」「繰上げ」など、多くは訓読みとして使われます。

**操**は、手と臬との会意形声字で、“手をせわしく動かす”という意味の字です。それは“手を巧みに使う”ということですから、“あやつる”こととなります。操作、体操。また、手仕事の意味から、“おこない”の意味で「操行」などの使い方が生まれ、また「節操」「貞操」などの使い方が生まれました。

**慄**は、心と臬との会意形声字です。意味は言わなくてもお分かりでしょう。“心がそわそわして落ちつきのない”ことです。